

## 中学校体育館

# LPガスGHP導入へ

## 足立区 23区初の公立校設置

## 都市ガスエリアのモデルに

東京都足立区（近藤弥生区長）は2019年度に先行して学校体育館に空調を整備する区立中学校3校のうち、花畑北中（齋藤直樹校長）でLPガスGHPを採用する方針を固めた。12日に開いた定例会見で近藤区長が明かした。ほか2校の都市ガスGHPと併せて今夏まで

に設置して事業手法や空調能力などを検証し、将来的に全校体育館への空調設置を目指す。これまで都内23区の公立学校にはLPガスGHPの設置実績がなく、今回の事例がモデルケースになると期待される。（3面に関連記事）

整備基金（計40億円）に盛り込み、3月開催の定例会に提出する。

東京都LPガス協会（尾崎義美会長）は、昨年9月に都が公立学校体育館への空調設置の補助制度を設ける方針（既に可決）を表明したことを受けて、11月21日にGHP導入総決起大会を開き、12月7日には小池百合子都知事に対してGHP導入検討を求める要望書を手渡すなど、都業界を挙げて首都の“LPガスの炎”復活の機運を盛り上げてきた。

具体的には、協会事務局が各支部をバックアップして自治体の防災・教育施設各担当者との折衝

を続けているが、都市ガス供給エリアの中心である23区でも、ようやくLPガスGHP設置推進の努力が目に見えるかたちで実を結ぶことになる。

近藤区長は、学校体育館の空調整備を進める理由として「第一避難所の向上」「熱中症対策を」となる体育館の生活環境「踏まえた教育環境の向上」の2点を挙げ、予算1億4800万円で18年度補正予算案で創設する区防災減災対策